

8509 近頃、アメリカで、「行儀作法」について・・・

近頃、アメリカで、「行儀作法」についての議論が、喧しくなってきた。テーブル・マナーに限らず、招待の仕方、受け方に始まり、子供のしつけ方に至るまで、世をあげて、自己反省である。

実際、アメリカ人、ことに若い人から中年にかけての世代の、マナーの悪さにびっくりすること再三である。

電話のかけ方一つ知らないティーンエイジャー、「サンキュー」「プリーズ」という言葉を知らない、一見キャリア・ウーマン、集団になって傍若無人な旅行者の、レストランでの振舞と、数えあげれば、キリがない。

ハロラン 茉美子『アメリカのニューエリートたち』

#### [許容訳例]

Recently there has been increasingly lively discussion about manners in America. The whole nation is having second thoughts not only about its table manners, but also how to make and accept an invitation, and even how to train its children.

In fact, I am often surprised at American's bad manners, especially those of the generation between youth and early middle age.

For example, I saw the teen-ager who didn't even know how to make a phone call properly, a woman who looked like a career-woman but didn't even say "thank you" or "please," the awful behavior of tourists in restaurants but there are too many examples to enumerate them all.

#### [翻訳例]

Recently in the United States there has been mounting controversy concerning the question of good manners. The nation as a whole is having second thoughts not just about table manners but about everything from how to issue and accept invitations to the training of children.

Not infrequently, in fact, one is astonished at the bad manners of Americans, especially the young and early middle aged.

There is the teen-ager who doesn't know how to make a phone call properly, the woman who looks like a career woman but doesn't know how to say "Thank you" or "Please," the groups of tourists in restaurants who behave as though they were only people there and so on indefinitely.

■近頃、アメリカで、「行儀作法」についての議論が、喧しくなってきた。(8509)

★「近頃」は recently; lately など。of late は使って間違いとは言えませんが文語的でちょ

っと古めかしく感じになります。なお, nowadays とか these days; now; today は述語動詞を現在時制にすれば使えます。

★「アメリカで」は in America; in the United States など。

★「行儀作法」ですが、引用符に囲んだのは、おそらく「礼儀作法(good manners)」の意味を付与したかったからでしょう。ただ、英語のクオーツにその用法はありませんから英語ではクオーティション・マーカスに入れる必要はありません。したがって、ここでは行儀作法そのもの、あるいはその善し悪しを言うのではないので manners だけでは不充分です。このような場合、普通は good manners とします。なお、etiquette という単語は、子供には使えませんし、もう少し高度な作法と言うか、formal な場合に使う言葉です。また、the rules of good behavior と聞くことも出来ますが、good manners の方が簡単でぴったりです。how to behave properly も子供に対しては「行儀作法」のこととすぐわかりますが、一般的な場合に使うと意味が広がってしまいます。私事になりますが、昔、夏になると避暑をかねてアメリカ人のお母さんと男の子が家の近くのプールにやって来ました。お母さんは本を読みながら息子をプールで遊ばせているのですが、男の子が騒いでバシャバシャすると、息子に“Be like a gentleman!”と諭していました。

★「(～についての) 議論」は discussion (about～); controversy (about [concerning]～) などです。なお、discussions と複数で用いると、実際に人が集まって議論している個々のケースが連想されますから、ここでは抽象名詞として使った方がいいでしょう。なお、上の good manners との組み合わせですが、たとえば、He gave a talk about good manners. のように「不定冠詞+名詞+about [concerning]～」とすると、一つの問題点としてではなく、ただ漠然と「～について取り上げた」という感じになってしまふので、問題に対するシャープさが足りないということになります。したがって concerning [about] the question of good manners とするといいでしよう。concerning [about] the ~と定冠詞を使うことで、たとえば、There's a controversy about the recent Diet session./ There's a controversy about the Prime Minister's visit to the Yasukuni Shrine. のように、すでにその話題を相手も承知している、という感じになります。

★「喧しく」は、このような場合、increasingly を使うのですが、ここでは「喧しい(議論)」と品詞を変えて lively discussion とか、あるいは mounting [increasing] controversy とすると、there has been…と状態動詞の完了を使うことができます。mounting は「ますます増える」という意味の形容詞で controversy とよく一緒に使われます。(参考: mounting intensity; mounting violence; a mounting storm のようにも使います。) なお、The good manners を主語にすると have been arousing [giving rise to] keen public controversy のように現在完了進行形を用いなければなりません。

◆現在完了と現在完了進行形

「最近、・・・になってきた」という日本語から、「現在完了」を使いたくなると思います。状態動詞は問題ないのですが、動作動詞の場合、現在完了というのは、過去に動作があっ

て、その結果、現在どうなっているかを述べるだけではなく、「だから・・・なんだ」という発言者の気持ちを言外に含ませて使うものです。しかし、ここでは‘過去にはじまって現在もそうだ’と言っているだけで、「だから・・・なんだ」という感情は述べられていません。それは、次の文の「世をあげて、自己反省(△中)である」からもうかがえます。したがって、「喧しくなってきた」を動作動詞で表すなら、‘現在完了進行形’を使わなければなりません。

■テーブル・マナーに限らず、招待の仕方、受け方に始まり、子供のしつけ方に至るまで、世をあげて、自己反省である。(8509)

★「テーブル・マナー」は table manners です。

★「招待の仕方・受け方」は how to issue[make] and accept an invitation [invitations] です。なお、how と代わりに the way も可能です。

★「子供のしつけ方」は how to train children; the training of children でしょう。他に the bringing-up of children も可能です。たとえば、He's well brought up. は「彼はしつけのよい、ちゃんとした人だ」という意味ですから。

★「世をあげて」は「国民全体が」と考えて the whole nation; the nation as a whole; society as a whole でしょう。nation の代わりに country を用いても間違いではありませんが、country を用いると国土の感じも入ってきます。「人々(国民)」について強調したい場合は nation がいいでしょう。

★「自己反省である」→「自己反省する」は have second thoughts about～を用いるとよいでしょう。これは、‘(今まで当然と思っていたが) 果たしてこれでよかったのかと考える’というニュアンスです。たとえば、He got married in a hurry, but now he is having second thought about it. のように使います。他に rethink the questions of という表現も使えるでしょう。なお、think over～は「(あとからゆっくりと)振り返ってもう一度考えてみる」ということで‘反省’は含まれていません。examine oneself は「自分の体を調べる」という意味もあるので使わないほうがいいでしょう。reflect は「ゆっくり考える」ということで think about ぐらいの意味で使うことが多いです。reconsider は「再検討する」ということで、「今までのやり方がまずかった」というニュアンスは含まれていません。

◆現在進行形(自己反省である)

この日本語の「自己反省である」は「(目下) 自己反省中である」と解するのが自然です。したがって、‘今現在の動作’になりますから‘現在進行形’(is rethinking…; having second thoughts…)を用いなければなりません。

●文構造(～に限らず～から～に至るまで)

「A に限らず(→ばかりでなく)、B から C まで」は not just [only] A, but from B to C ですが、「至るまで」とあるのでと everything を入れないと物足りない感じがします。したがって、ここは rethinking the questions not only of table manners, but of everything from A to B とか、having second thoughts not just [only] about table manners, but about everything from A to B です。

■実際、アメリカ人、ことに若い人から中年にかけての世代の、マナーの悪さにびっくりすること再三である。(8509)

★「実際」は *in fact* が最もよいでしょう。なお、*really* も使えます。*actually* (現に) は、ちょっと異なるニュアンスです。

★「ことに」は *especially* でしょう。

★「若い人から中年にかけての・・・」は、一方は「人」で、もう一方は「年齢」ですから、「若い人から中年の人にかけての・・・」か「青年から中年にかけての・・・」とかに統一します。「人」にすると *Americans, especially the young and the early middle aged* となります。「年齢」としてそろえるなら *those of the generation between youth and early middle age* です。なお、「世代」は強いて訳さなくてもいいと思います。

★「アメリカ人のマナーの悪さ」は *the bad manners of (the) Americans* でしょう。*Americans' bad manners* でも間違いではありません。

★「～にびっくりする」は *I am (very) often surprised at ~* でもよいのですが、一般人称として *one* (もちろん、I も含まれています) を用いる方が、主觀性が緩和されていいでしょう。また *surprised* の代わりに *astonished* を用いることもできます。

★「再三」は *(very) often* のほかに *not infrequently* も使えます。

■電話のかけ方一つ知らないティーンエイジャー、「サンキュー」「プリーズ」という言葉を知らない、一見キャリア・ウーマン、集団になって傍若無人な旅行者の、レストランでの振舞と、数えあげれば、キリがない。(8509)

★「電話のかけ方一つ知らない」は「正しい電話のかけ方[正しく電話をかける方法]一つ知らない・・・」と改めることができます。*doesn't even know how to make phone call properly* です。なお、*how to...* 以下を *the proper way to make a phone call* としてもいいでしょう。「電話をかける」に *call up* が辞典に出ていますが、ここでは‘相手’がないので使えません。「正しい→正しく」は *properly* の他に *courteously* も許されるでしょう。また、*the proper way to make a phone call* という言い方もできます。

★「ティーンエイジャー」は *the teen-ager* と定冠詞を使います。*a teen-ager* ですと一人に隈定されてしまいます。

★「サンキュー」「プリーズ」は、そのまま“Thank you” or “Please”とします。

★「～という言葉を知らない」→「～という言葉の言い方[=使い方]を知らない・・・」と考えて、*doesn't know how to say “Thank you” or “Please”* とします。また、簡単に「～と言わない」と考えて *doesn't say “Thank you” or “Please”* としてもいいでしょう。なお、「言わない」を強めるつもりで *wouldn't say...* とすると「こちらが待っているのになかなか言ってくれない〔言おうとしない〕」というニュアンスで *refused to say* という感じになってしまいます。

★「一見キャリア・ウーマン」は「キャリア・ウーマンに見える女性」と考えて *the woman who looks like [seems to be] a career-woman* でしょう。*the woman who is seemingly a*

career-woman としても間違いではありませんが、やや主観的な表現になる感じで、どちらかと言えば looks like を使った方がいいと思います。

★「レストランで」は一般的な傾向を述べるなら in restaurants ですが、自分の経験を述べるのなら in a restaurant と不定冠詞にします。つまり、I was in a restaurant and the tourists who were there with me at that time ということになります。

★「傍若無人に振舞う」は behave as though [if] they were the only people there とか、あるいは behave as though [if] they owed the place などでしょう。後者の表現は場合によっては‘非常に威張っている’という意味にもなります。

★「旅行者の集団」は the groups of tourists でしょう。the flocks of tourists としても間違いではありませんが、flocks を使うと、どうしても‘羊の群れ’を連想してしまいます。

#### ●原文を変えて訳す

「電話のかけ方一つ知らないティーンエイジャー、「サンキュー」「プリーズ」という言葉を知らない、一見キャリア・ウーマン、集団になって傍若無人な旅行者の、レストランでの振舞」は三つの「連体修飾節+体言」を含んでいます。英語では「名詞+関係詞節」で、There is the ~ who…, the ~ who…, the ~ who…, and so on. とするといいのですが、前の二つが、「…なティーンエイジャー、…なキャリア・ウーマン」と「人」が主語になっているのに対して、三つ目は「～のレストランでの振舞い」となっているので構文的に変更が必要です。それで、「人」が主語になるように「集団になって傍若無人な旅行者の、レストランでの振舞」は「レストランで傍若無人に振舞う旅行者の集団」と変えます。そうすると、「電話のかけ方一つ知らないティーンエイジャー」は the teenager who doesn't even know how to make phone call properly であり、「サンキュー」「プリーズ」という言葉を知らない、一見キャリア・ウーマン」は the woman who looks like a career woman but doesn't know how to say "Thank you" or "Please" であり、「レストランで傍若無人に振舞う旅行者の集団」は the groups of tourists in restaurants who behave as though they were only people there となって、There is the teen-ager who…, the woman who…, the groups of tourists in restaurants who… and so on indefinitely. とすることが出来ます。ただし、There is…ではなく I saw…とするなら、I saw the teen-ager who…, the woman who…, the awful behavior of tourists in restaurants…とすることも出来ます。

★「かぞえあげたらキリがない」には…and so on indefinitely がよく使われます。これはよく使われる所以一つの fixed phrase として覚えておくといいでしょう。他に…but there are too many examples to enumerate them all とか、but there are so many examples that one cannot…とかでしょう。辞書には There are similar cases too numerous to mention という表現が出ていますが、ここで使うとすれば…and similar cases too numerous to mention です。また、there is rarely no end to the list of such cases. も出ていますが、これでも構いません。